
Flow at , exchange fate

紅月ナナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Flow at , exchange fate

【ZPDF】

Z0204F

【作者名】

紅月ナナ

【あらすじ】

あの日、あの事件が起こった後から彼らの運命が180度回転した。『絶対オメーが幸せに暮らせる世界にするから。』この約束を新一は守れるのか！？*シリアル多めです。死ネタもありかもです。苦手な人はbackしてください。

第1話・始まりの時

「」は帝丹学園高等部。

今は放課後なのでほとんどの人は部活をやっていた。
そして後の数名は生徒会室で委員の仕事をしていた。

「」ら新一君！！また生徒会の仕事、休むつもり！？」
「しかたねーだろ？日暮警部に呼び出されちまつたんだからよーーー！」

「まあいいじゃない。新一は推理オタクなんだから。」

「わかったわよ。じゃあ明日、せっちりやつてもううからねーーー！」

「ああ。」

新一は生徒会室から出て行つた。

一杯戸公園

「いやー今日も事件解決に協力してくれてありがとう、工藤君。」

「どういたしまして。」

「これから被疑者の事情聴取があるんだが、君もつきあわんかね？」

「いや僕は遠慮しておきます。これからちょっと、用事もあるので

…

「そうかね。」

「では、僕はこれで…」

「ウム。気をつけて帰るんだぞ。」

新一は本屋に行こうとして歩いていると小型飛行機が墜落しそうになつてゐるのを見つけた。

そして新一がその飛行機を追うと墜落していた。
だが乗客は全員生きていた。

一応警察に連絡しようと新一が携帯を取り出した時、こんな会話が聞こえてきた。

「あの女は無事なんだろ?」

「はい。もちろんです。」

「あの女が死んでいたらボスに顔向けるできませんからな。」

「東の方に野次馬が集まっていますが…」

「フン。そんなもの皆殺しにしろ。」

「(アイツら、なんてことを…)」

新一は思つた。

ちなみに新一は北側にいたので助かつたのだ。

しかし新一が警察に連絡し終わつたときに見つかってしまった。

「おまえ高校生探偵の工藤新一だな。こっちに来い…」

「あそこで何をしていた。」

「フツ…あなたたちがやつていい」と呟つもまじだと感じますけど
?」

「な、生意気な…おい、お前が『イツを撃て…』

「僕には撃てません。」

「まさかその声…高木涉…なのか?」

「久しぶりだね、工藤君。」

「高木、テメー裏切るつもりか!…」

「ドン!…」

「高木!…」

「さあ…次はお前の番だ…」

「撃つなああー」

「ドン!…」

「(『、コイツ、オレのために…』)

ファンファンファン…

「まさか、警察か!…」

「よし、今の内にこれを…」

「ドーン

「え、煙幕!…」

「まさかあのガキが……」

「あ、あの、警察がむづづかり……」

「く、くそ……全軍にて、今すぐここから立ち去るんだ……！」

「ハツ……！」

一方あそこから脱出した新一は少し離れた所にある木の上にいた。
「おまえ、どうしてオレなんかを……って聞いても答えてくれねーよ
な。さて、一回現場に戻るか。」

そう言つて少女を木の上に寝かせたまま、新一はあの事件現場に戻
つていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0204f/>

Flow at , exchange fate

2011年1月28日04時07分発行